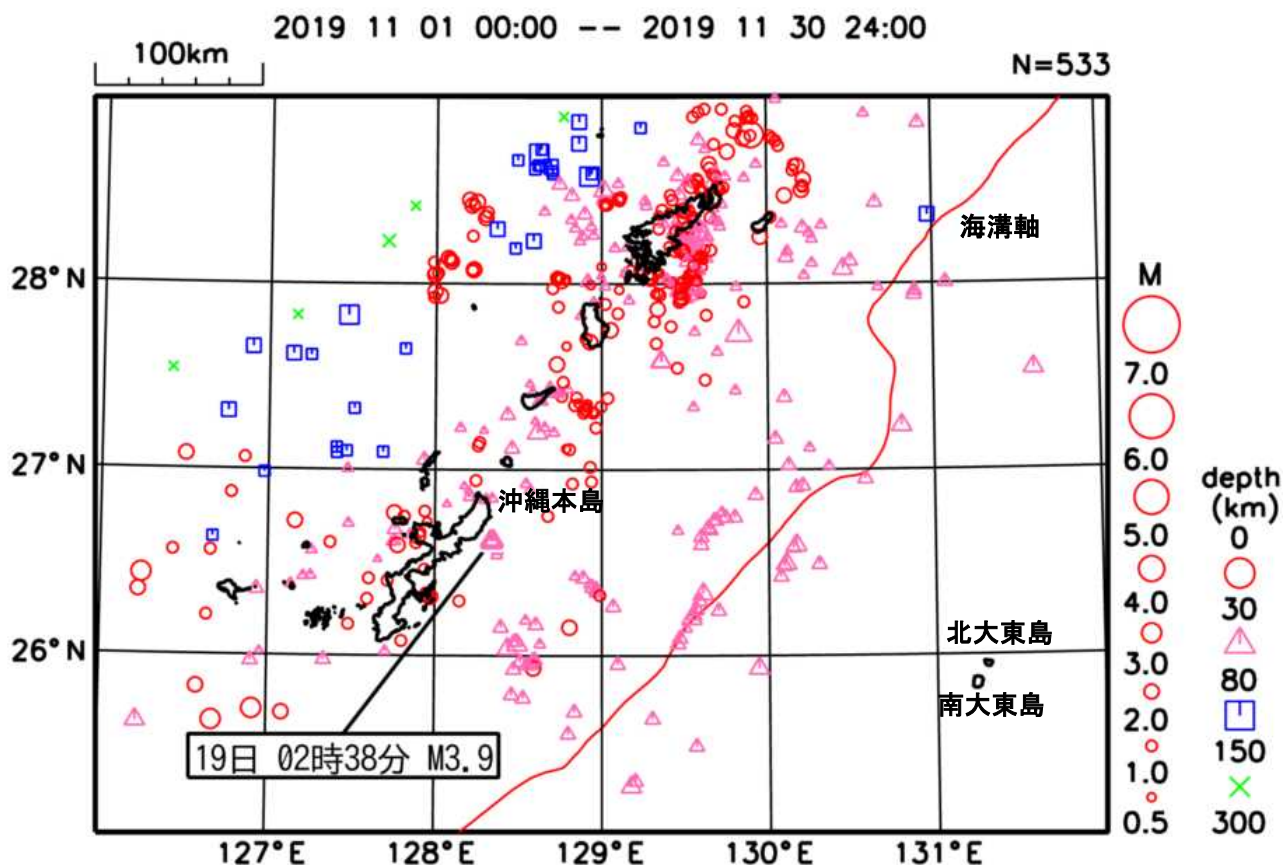


# 地震活動図

2019年11月

南大東島地方気象台

## 震央分布図



図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ

N：地震回数（マグニチュード0.5以上の回数です）

大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

### [ 概 況 ]

今期間に、大東島地方及び沖縄本島地方とその周辺（図の範囲内）で観測した地震は533回（10月746回）で、このうちM4.0以上の地震は3回（10月6回）でした。

また、震度1以上を観測した地震は、大東島地方ではなく（10月0回）、沖縄本島地方で1回（10月0回）でした。

#### ※ 資料中のデータについて

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

#### ※ 概況中の震源の深さについて

震源の深さは、精度がやや劣るものは表記しないことがあります。

#### ※ データについては精査により、後日修正することがあります。

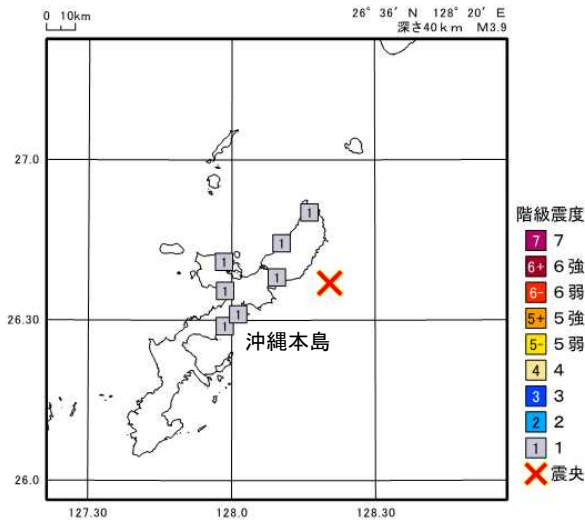
**大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の表（期間：2019年11月1日～30日）**

震源時 各地の震度（沖縄県内のみ記載）	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2019年11月19日02時38分 沖縄県 震度 1：名護市豊原, 名護市港*, 国頭村奥, 国頭村辺土名*, 東村平良*, 今帰仁村仲宗根*, 宜野座村宜野座*	沖縄本島近海	26° 36.9' N	128° 20.4' E	40km	M3.9

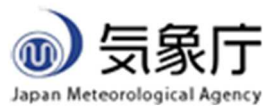
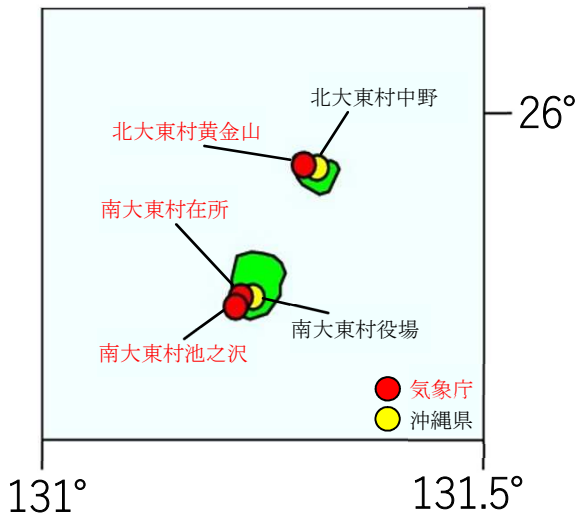
\*の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

**大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の震度分布図**

2019年11月19日02時38分 沖縄本島近海の地震の震度分布図



**大東島地方の震度観測点**



本件に関するお問い合わせ先

（南大東島地方気象台）

電話 09802-2-2006

<https://www.jma-net.go.jp/daitou/>

## 地震雲はあるのですか？

気象台にかかってくる問い合わせに「今、見える雲は地震雲じゃないのか？」というものがあります。「いつもと違う雲に見えた」、「動かない雲がある」、「雲と青空の境目がくっきりしている」といったものが多くあります。それらの多くは気象現象として説明できる雲の一つです。雲と地震を関連付ける前に、まずは気象現象かどうか十分に検証することが大切です。

「地震雲」が無いと言いきるのは難しいですが、仮に「地震雲」があるとしても、「地震雲」とはどのような雲で、地震とどのような関係なのか、科学的に説明がなされていない状態です。

また、生活に影響が出るような大きな地震が起きた後、しばらくすると必ずと言っていい程出てくるのが「何日後にどこで地震が起きる」などといったデマ情報です。スマトラ島沖地震(2004年)の後には再び津波が来るというデマによりパニックが起きてしまい、その結果亡くなってしまった方もおられます。

**気象庁は日時や細かい場所、マグニチュードを特定して地震を予知する情報を出すことは決してありません。**

近年ではインターネットやSNSなどの普及により情報の数が増えるのに比例してデマ情報も増えてきています。正しい情報に基づく迅速な避難が、災害を最小限にとどめることは言うまでもありません。発信元が信頼できるか確かめ、根拠のない誤った情報かを判断することも必要です。

地震や津波を正しくおそれて、冷静な行動により「自らの命は自らが守る」意識をもって避難することが重要です。



写真（左）上部は高積雲、中央は波状の高積雲です。写真（右）巻雲の写真です（気象台職員撮影）。雲の種類によって明日の天気や地震を予想する言い伝えは多くありますが、この雲なら地震が起きるといふ科学的根拠や説明はありません。



地震・津波に関する情報は  
沖縄気象台ホームページまで

<https://www.ima-net.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄気象台

Q 検索

